



I 第13週の発生動向 (2026/3/23~2026/3/29)

- インフルエンザについては、東津軽+青森市保健所管内で**警報**が継続しています。また、西北保健所管内で**注意報**が継続しています。一方、三戸+八戸市保健所管内、上北保健所管内及び下北保健所管内の警報及び中南保健所管内の注意報は**解除**となりました。県全体の定点当たり報告数は減少していますが、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、基本的な感染対策の徹底をお願いします。季節性インフルエンザの発生状況・型別等の情報については、県庁HP「インフルエンザに注意しましょう！」をご覧ください。
☞ [インフルエンザに注意しましょう！\(県保健衛生課\)](#)
- 水痘については、西北保健所管内の注意報は**解除**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「レプトスピラ症」です。

最終ページに掲載しています。

II 第13週五類定点把握象疾患

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■は警報、■は注意報。「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減	
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点		
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	162	14.73	60	6.00	57	5.70	87	14.50	48	5.33	38	6.33	452	8.69	-286
	新型コロナウイルス感染症	14	1.27	4	0.40	35	3.50	24	4.00	42	4.67	14	2.33	133	2.56	-15
	急性呼吸器感染症	927	84.27	335	33.50	494	49.40	299	49.83	499	55.44	399	66.50	2953	56.79	-79
小児科	RSウイルス感染症	3	0.50	2	0.33			5	1.00					10	0.29	-5
	咽頭結膜熱					4	0.57			1	0.17	2	0.50	7	0.21	-4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13	2.17	14	2.33	20	2.86	7	1.40	5	0.83	2	0.50	61	1.79	11
	感染性胃腸炎	14	2.33	11	1.83	29	4.14	15	3.00	9	1.50	4	1.00	82	2.41	11
	水痘	1	0.17			2	0.29			2	0.33			5	0.15	-7
	手足口病															0
	伝染性紅斑					1	0.14							1	0.03	-1
	突発性発しん	3	0.50	1	0.17	1	0.14							5	0.15	0
	ヘルパンギーナ															0
	流行性耳下腺炎							1	0.20			1	0.25	2	0.06	2
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎															0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎										5	5.00		5	0.83	-1
	無菌性髄膜炎															0

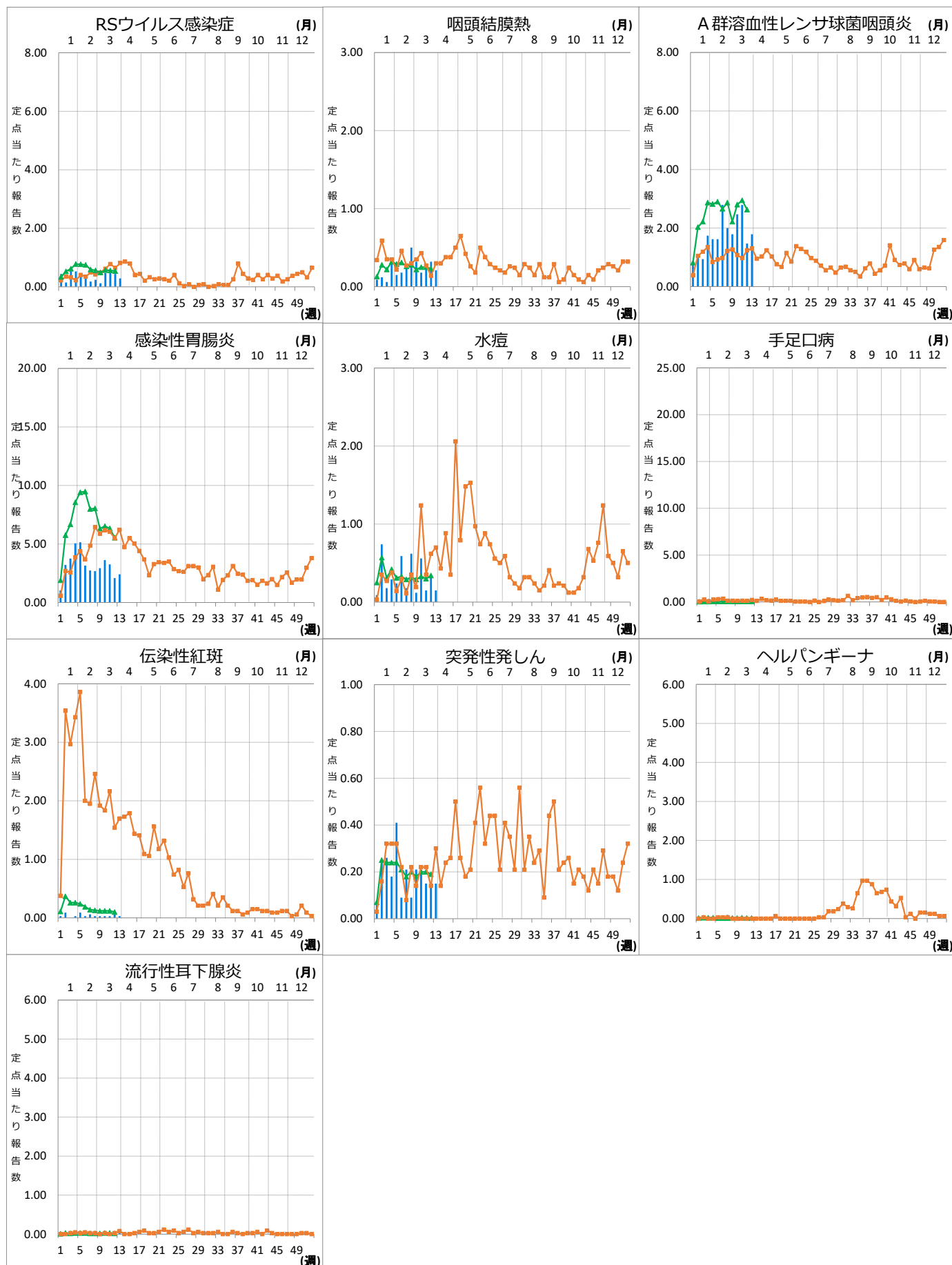
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第13週、ただし全国は前週)

グラフの説明: 〇—は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



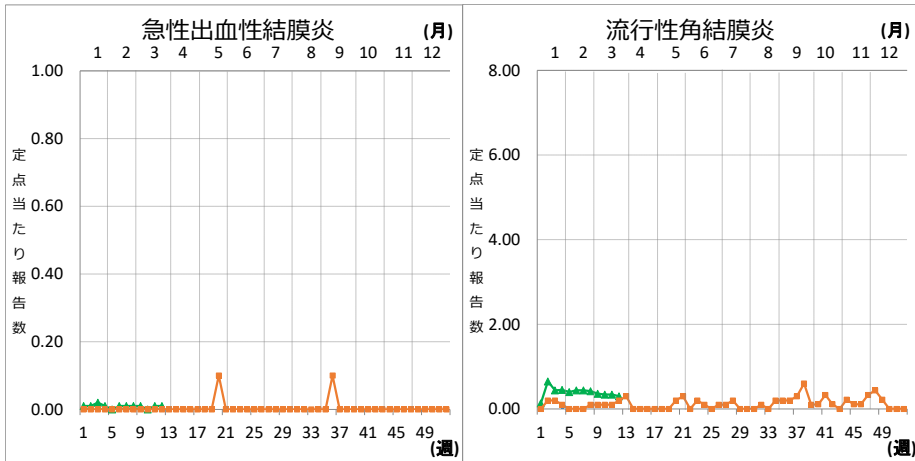
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第13週、ただし全国は前週）

グラフの説明  は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



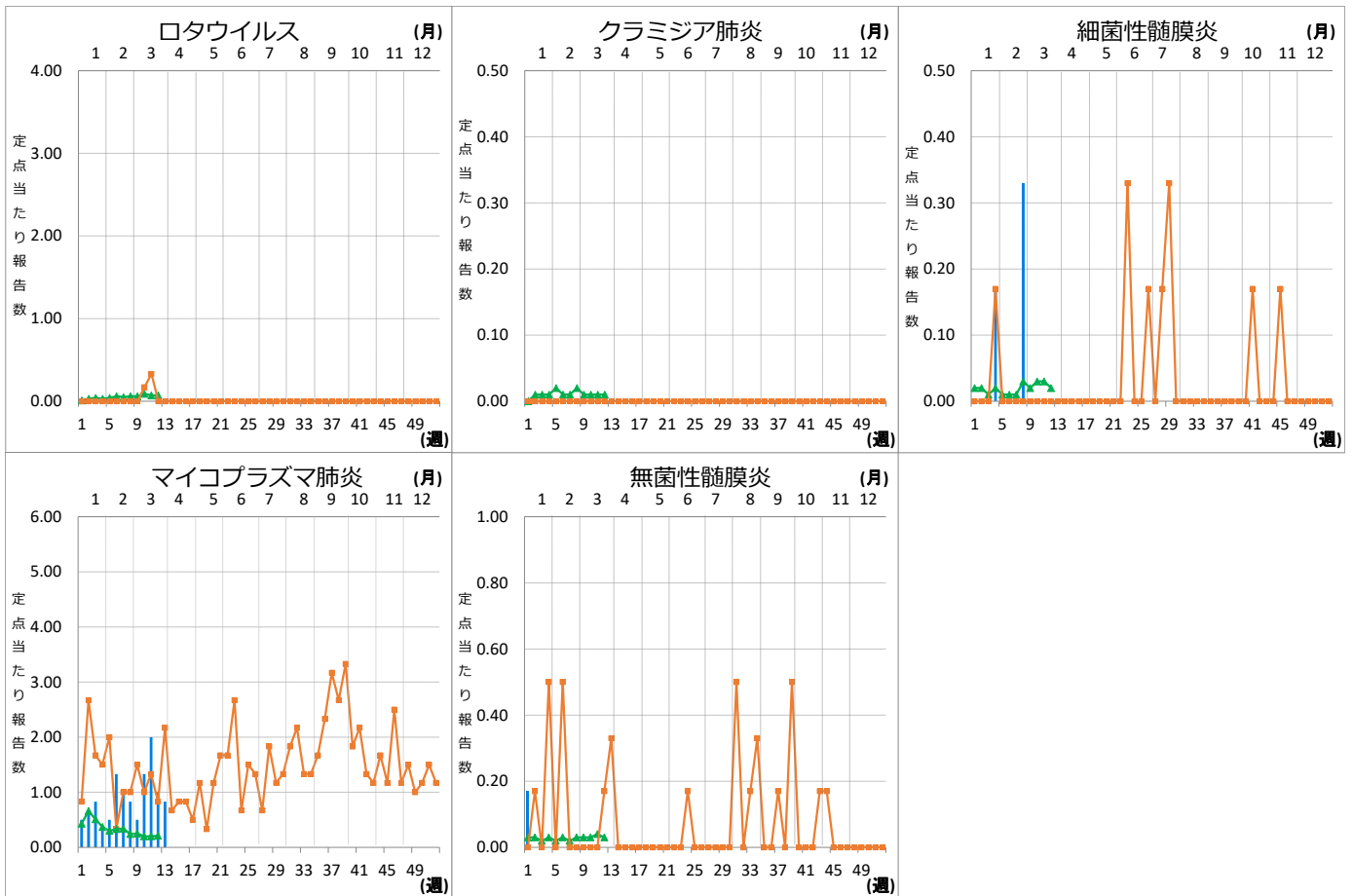
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第13週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第13週、ただし全国は前週）

グラフの説明  —は2026年青森県、■—■は2025年青森県、▲—▲は2026年全国



Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第6週～13週)

急性呼吸器感染症	2026年							
	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
提出検体数	6	8	7	11	5	6	10	7
インフルエンザウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
インフルエンザウイルスB	4	4	4	7	2	1	1	
SARS-CoV-2	0	0	0	1	0	0	1	
RSウイルスA	0	0	1	2	0	2	2	
RSウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	1	0	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	1	0	
パラインフルエンザウイルス4	0	1	0	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	0	2	1	0	2	3	0	
アデノウイルス	0	0	1	0	2	1	0	
不検出	2	2	1	2	1	1	6	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	1	7

※第7週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス4及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第8週に提出された検体のうち、RSウイルスA及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

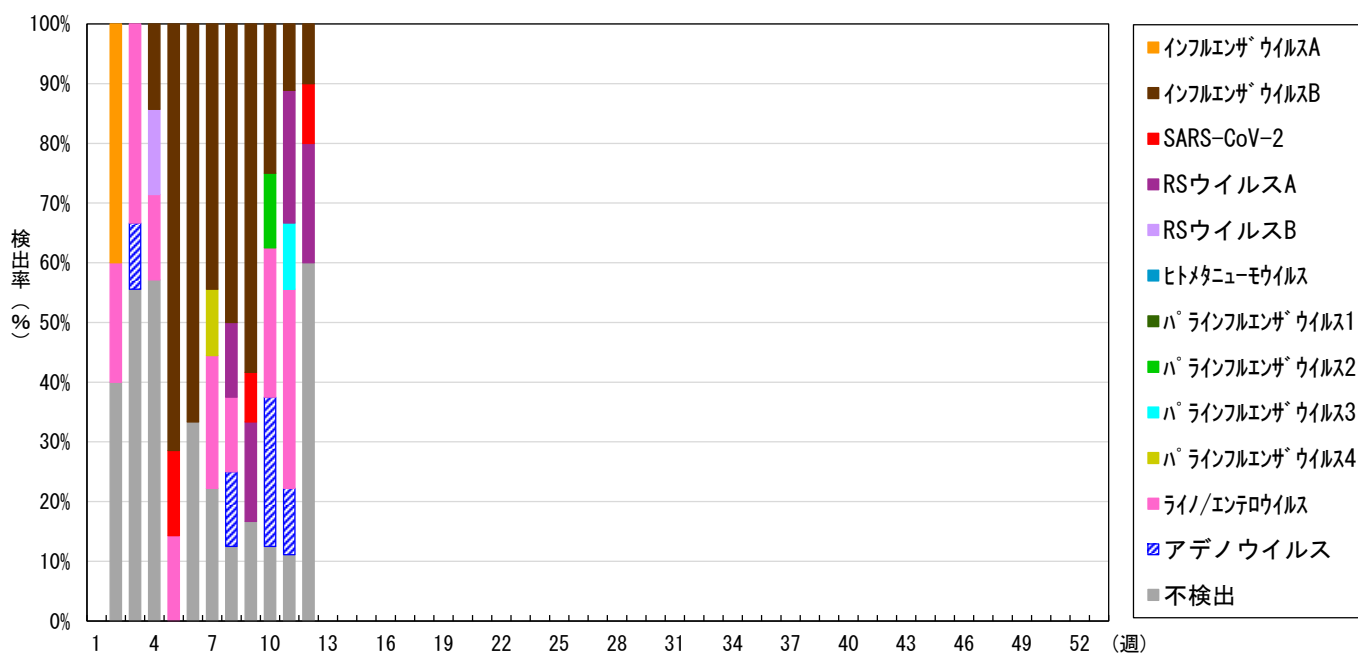
※第9週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第10週に提出された検体のうち、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが検出されたものが1検体、インフルエンザウイルスB、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ/エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第11週に提出された検体のうち、RSウイルスA、パラインフルエンザウイルス3、ライノ/エンテロウイルス及びアデノウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

※第12週に提出された検体のうち、SARS-CoV-2及びRSウイルスAが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～12週)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第13週）

- ・結核(二類感染症)：八戸市1人 (2026年計： 17人)
- ・侵襲性インフルエンザ菌感染症(五類感染症)：中南1人 (2026年計： 3人)
- ・百日咳(五類感染症)：八戸市1人 (2026年計： 11人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2026年第10週～2026年第13週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
10	結核1人 A型肝炎1人 クロイツフェルト・ヤ コブ病1人 百日咳1人	結核1人				
11	結核1人 A型肝炎1人 劇症型溶血性レン サ球菌感染症1人			梅毒1人	腸管出血性大腸菌 感染症1人	
12	劇症型溶血性レン サ球菌感染症1人			水痘(入院例)1人		百日咳1人
13		侵襲性インフルエ ンザ菌感染症1人	結核1人 百日咳1人			

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第12週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	エムポックス	オウム病
累積報告数	2958	20	342	6	4	148	34	2	27	1
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	6	34	22	5	7	395	2	103	45	223
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	6	104	3	33	363	192	7	120	14	748
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	
疾病名	水痘(入院例)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	161	2313	47	15	18	2017	1	152	5	

青森県（2026年第1週～第13週までの累計）

分類	二類	三類	四類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	A型肝炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒
累積報告数	17	4	3	1	5	1	3	5	6	2
分類	五類									
疾病名	百日咳									
累積報告数	11									

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第13週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第13週	介護・老人福祉関係施設	10	八戸市保健所
第13週	児童・婦人関係施設等	30	上北保健所

2026年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)	1月	2月	3月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1-5週	6-9週	10週	11週	12週	13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	
介護・老人福祉関係施設	件数	2	2	2	1	1	1									9
	発症者数	37	44	25	14	14	10									144
児童・婦人関係施設等	件数	4	0	0	0	0	1									5
	発症者数	92	0	0	0	0	30									122
障がい関係施設	件数	1	0	0	1	0	0									2
	発症者数	20	0	0	18	0	0									38
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0									0
	発症者数	0	0	0	0	0	0									0
計(月別)	件数	7	2	7												16
	発症者数	149	44	111												304

感染症の窓

レプトスピラ症

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラによる人獣共通の細菌感染症です。病原性レプトスピラを保有しているネズミ、イヌ、ウシ、ウマ、ブタなどの尿で汚染された下水や河川、泥などが、傷口や粘膜に接触したり、時には汚染された飲食物の摂取によりヒトに感染します。特にネズミが多い場所では、レプトスピラ症にかかったネズミの糞や尿を介して感染する可能性が高くなります。特に洪水などのあとは危険性が高まります。また、急流のラフティングやカヤック、湖沼での水泳など、水関連のレクリエーションで感染する可能性もあります。

病原性レプトスピラに感染すると、2日から3週間程の潜伏期間のあと、頭痛、発熱、悪寒、筋肉痛、吐き気、下痢や腹痛などが現れます。皮膚に発疹が現れることもあり、多様な症状を示します。重症型の黄疸出血性レプトスピラ症（ワイル病）と、軽症型の秋季レプトスピラ病などがあります。ワイル病になると、体が黄色くなり、いろいろな臓器の機能が侵され、死亡することもありますので、早期に受診、治療をする必要があります。

レプトスピラ症の治療には抗生物質の投与が行われます。レプトスピラ症を予防できるワクチンは、現在ありません。水に関連するレクリエーションをする場合は、水の中でけがをしないよう、防護用の装備を着用しましょう。皮膚にけががある場合は、水の中に入らないようにしましょう。また、汚染されている可能性のある場所で水を飲むことは避けましょう。



図 病原性レプトスピラの電子顕微鏡像
(出典：国立感染症研究所 HP)

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞ [レプトスピラ症（ワイル病）（厚生労働省検疫所 HP）](#)

